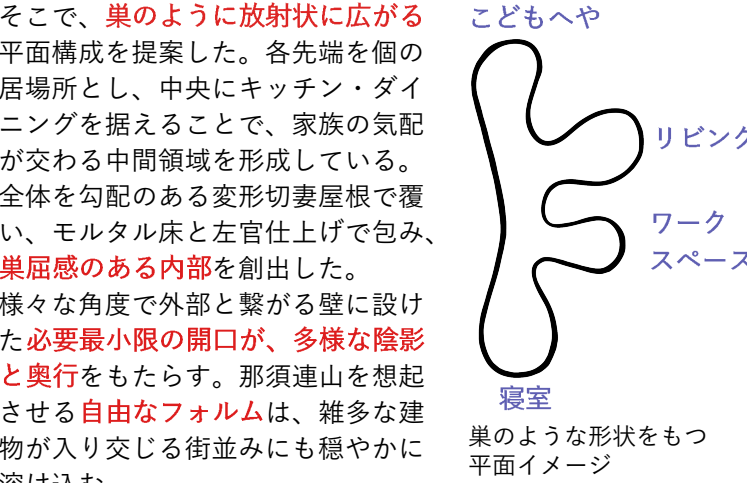




家族が集う場の天井高さを最も高くとり、そこを中心に四方八方に伸びた大小の居場所を配置している。床はモルタルで土間のように仕上げ、巣屈感や洞窟感のある内部が実現している。

巣のような家

2020年、子育て世代のクライアントと出会った。当初は都内での土地探しを進めていたが、コロナ禍を経て働き方が変化し、**子育てしやすい環境**と経済的なメリットを考えて故郷・那須塩原市黒磯駅近くに平屋を建てる方針へと転換した。断熱性能を高めた省エネルギー住宅としつつ、家族それぞれの居場所が緩やかにつながる、バリアフリーな土間空間を求められた。



平面構成を提案した。各先端を個の居場所とし、中央にキッチン・ダイニングを据えることで、家族の気配が交わる中間領域を形成している。全体を勾配のある変形切妻屋根で覆い、モルタル床と左官仕上げで包み、**巣屈感のある内部**を創出した。様々な角度で外部と繋がる壁に設けた**必要最小限の開口が、多様な陰影と奥行**をもたらす。那須連山を想起させる**自由なフォルム**は、雑多な建物が入り交じる街並みにも穏やかに溶け込む。

本建築は、構成、フォルム、素材、スケール、環境を統合的に整理することで、日常空間に静かな個性を与え、将来も見据えた**暮らしの多様なシーンを受け止める余白**を意図した。こうした設計は、周囲の建物の多彩な付まいや土地のポテンシャルを活かすことで実現できたものでもあり、このおおらかさと柔軟性が、ここに新たに住まう人々に、住宅の可能性を考えるきっかけとなればと思っている。

建築主コメント

今回の住宅を計画するにあたり、私たちが最も大切にしたのは一見すると普通に見えながらも、細部にこだわりが息づく住まいであることでした。過度に主張するデザインではなく、家族の暮らしや変化に柔軟に寄り添う、“シンプルでありながら、さりげない独自性を備えた空間”として設計していただきたいと考えていました。もちろん、快適に安心して暮らすために、住宅としての性能を犠牲にしないことも重要な要望のひとつでした。

実際に住んでみると、落ち着きの中に遊び心が感じられ、嫌味のないデザインが日々の暮らしに自然と馴染んでいます。住むほどに設計者の思いや細部の配慮が伝わり、愛着が深まっていくのを実感しています。家族のこれからの時間を、この住まいとともに重ねていけることを、とても嬉しく思っています。

設計者コメント(株式会社川島真由美建築デザイン)

この場所で「ここに住まう」を建築主とともに考えた時間は、とても楽しく、また最近の気候変化に対応した、省エネで環境にやさしい住まいを目指す過程では、多くの気づきがありました。ご家族も増え、竣工後に訪れると、個性が空間に息づき、思い描いていた以上の心地よさを実感し、この家とともにご家族の暮らしがより豊かに広がっていくことを想像しています。

施工者コメント(株式会社オオバ工務店)

屋根の形状が複雑なため、立体的な空間の把握にとても苦労しました。そのため、構造プレカット図の打合せ・作成に普段よりも時間をかけ慎重に進めさせていただきました。シンプルかつ、確かな個性も持ち合わせているすばらしい作品に携われた事を大変光栄に思います。



連結部となる中央にキッチンとダイニングを中間領域として配置している。



天井高さが一様でない内部。天井と壁は左官材で仕上げ巣屈感を出している。



玄関アプローチと公私の境界を緩やかにつくるアウトドアテラス。



巣のような平面形状が多様な外部を生み、開き方の異なる庭にしている。



周辺に最近増えてきた店舗のグレーな街並みに合わせた外観としている。



小上りになっているヌックは妻のワークスペース。



ダイニングよりトイレ上ロフトを見る。



切妻屋根の棟が登ることで洞窟感も表現。



玄関よりダイニングを見る。